

日本発ドイツ便り～夏のはじまり

ドイツの夏は公式には、夏至の日 (Sommersonnenwende: ゾンマーゾンネンヴェンデ) から始まります。今年の夏至は6月22日。それにしてもドイツ語らしい長い単語ですね。サマータイムの影響もありますが、ドイツでは、夏の間、夜の10時ごろまで明るいので、日本では、夏でもさすがに7時を過ぎると暗くなるので、ドイツの夏は、使える時間が長いというか、なんか得した気分です。(反対に、冬は4時には暗いので、差し引き0かもしれませんが。)

7月と8月の2ヶ月は、夏休み！ということで、この時期の話題はやっぱり「今年の夏の予定は？」でしょうか。といっても年明けには会社に休暇の申請をして、もう早くから予定は決まっているんですけどね。さすがに会社に誰もいなくなると困るので、多少の時期の調整はあるそうです。たとえば、7・8月は子供のいる世帯が優先。などなど。

ドイツの有給休暇は、なんと、軽く一ヶ月を越えるのです。2-4週間まとめて取るのはごく当たりまえ。(いいなあ。)

以前、友達に、有給をまとめてとるのは大変で、残業なんかも結構ある。と日本の会社事情を説明したところ、ひとこと、「それって自分がつくった会社？」とびっくりされました。要は、ドイツでは、休みが取れん+残業がある、なんてのは、そういう例外的な人だけってことですね。

まあ、それはそうと、夏休み。ドイツでは州(正しくはBundesland: 連邦州)ごとに学校の夏休みの時期が少しずつ異なります。これは、全国的に一気に夏休みに突入するよりも、渋滞などの問題が緩和できる。などのいろいろの理由があるようです。(日本のお盆や年末年始の状況を思い浮かべると、なるほど、なかなか合理的だな。と納得いきますね。)

で、ドイツ人達の目指す先は？

圧倒的に水際です。正確には綺麗な海と砂浜、そして輝く太陽のあるところ。

目的も観光やショッピングではなく、日光浴と海水浴。あとはひたすら日常から離れて、のんびりリラックスすること。

行き先の一番人気は、地中海の島。なんと、昨年一年間で、ドイツ発の飛行機で、630万人が地中海の島に向けて出発しています。(ドイツ人の人口は8000万人)そのうち66%の410万人が、スペインのバレアレス諸島(マヨルカ島、メノルカ島やイビサ島)を訪れているそうです。(あとは19%の120万人がギリシャに、あとはマルタなどなど。)マヨルカ島にいたっては、昨年実績で、のべ380万人のドイツ人がやってきたそうです。あまりにもドイツ人が多すぎて、ドイツ語も通じるそうです。(日本とハワイの関係みたいですね。)今年は、サミットの影響もあってか、北ドイツのビーチもなかなか人気だそうですよ。

ちょっと遠くでは、ドバイやトルコ、スリランカやプーケット、モーリシャス、モルディブなどなど。やっぱりビーチばかりですね。「ビーチに行かないと、どうも休暇って気がしない」とは、友人の言葉ですが、なんか見事に刷り込まれていますね。

ドイツ語の面白い表現で、Wasserratte: ヴァッサーラッテというものがあります。「ミズハタネズミ」(どんなネズミや?)という意味と「泳ぎが大好きな人」という意味があります。ドイツ人はみんなWasserratte? («ああ、あの人はWasserratteだからねえ」ってな使い方をします。)

といっても、みんながみんな夏休みを取って、ビーチにいけるわけではない、が、やっぱり日光浴はしたい。というニーズがおそらくあったのだと思いますが、この5年くらい前から都心部にも人口ビーチが出現しています。多分、最初に始めたのはパリのセーヌ河だったと思います。ケルンにはライン河沿いに、ウィーンにはドナウ河沿いに、7月1日からビーチが出現します！残念ながらまだ行ったことはないですが、写真を見る限り、なかなか立派ですよ。さすがに泳ぐのはどうかと思うけど、もともと、日光浴が目的の人が大半なので、そのへんは良いようです。ウィーンのドナウ河沿いのビーチ「Sand in the City」には、ちゃんと日光浴用とスポーツ用のビーチなどでできているようです。もちろん飲食関係も本格的+充実。(ウィーンでいつも泊まるホテルが、そのビーチにレストランを出すとかで、プレオープンのパーティにご招待いただきましたが…。もうちょっと近かったら行ったけどなぁ…。)

日本の美白崇拜からはありえない発想ですが、なんか時間の流れ方の違いを感じますね。でも2-4週間の休暇、というものをそもそも想像するのも難しいので、一回体験してみたいものです。



ドイツの夏の風景

さて、今年の皆さんの夏休みのご予定は？